

平成29年度 伊豆市商工会経営発達支援計画 事業評価表

経営発達支援計画検討委員会の開催 ・日時 平成30年2月5日(月)午後3時～5時 ・会場 伊豆市商工会 会議室 ・参加者 検討委員4名、事務局3名

項目	実施事業	事業内容	本年度 目標	実績 (4～1月)	実施状況、委員会コメント・評価
I 地域の 経済動向 調査	①小規模企業景気動 向調査	対象:4地区 9業種18事業者を12ヶ月 調査方法:巡回及び窓口でのヒヤリング 内容:前年同月比「売上」、「仕入単価」、「採算」、「資金繰り」、業界 の業況」の五項目 (調査件数)	864	580件 (見込み)	経営指導推進会議の開催において、回数は目標を 満たしている。補完する業務推進会議と合わせ職員 間の情報共有などの点で有効であった。  行政、金融機関との経営発達連携会議においては、 開催方法を検討し変更した。結果、金融機関との連 携によるセミナーの開催は成果があった。
	②経営指導推進会議 の開催	・対象者 経営指導員他指導事業実施職員 ・頻度 毎月1回 ・活用方法 企業訪問隊で得られた情報や地区内概況の情報交換を 行い職員間で情報共有を行う。(開催回数)	12	12回 (見込み)	概ね目標数値は達成できたが、調査、会議の結果 の活用が重要であるので活かしてほしい。
	③経営発達連携会議 の開催	・対象者 伊豆市商工会経営指導員、伊豆市役所、市内金融機関等 ・頻度 各金融機関ごとに各1回。その後必要に応じ随時開催する。 ・活用方法 地域の経済動向や各機関で把握している情報等の交換 (開催回数)	6	9回	委員会評価はA。
II 経営状況 分析	①巡回訪問	経営指導員等による巡回訪問	1,700	1700回 (見込み)	巡回訪問では巡回件数は評価するも、小規模事業 者と商工会との距離を狭める巡回訪問を望む。商工 会を身近な存在としたい。
	②経営状況分析	・対象者 巡回指導、窓口相談等により経営指導推進会議に諮り 選定された事業所 ・分析項目 イ、財務分析 ロ、経営分析 ハ、労務分析 ・提供方法 巡回訪問して、要支援先に分析結果と支援方法を報告 する。希望する事 業者には、専門家派遣等を有効活用して継続支援する。 (分析件数)	30	39件	経営状況分析では、分析件数では本年度の目標 数値は達成できたが、分析をした結果の活用を望 む。  委員会評価はB。
III 需要動向 調査	①業種部会による情 報収集	業種部会開催時の情報交換により業界動向の情報を収集する。 (部会開催数)	8	9回	業種部会による情報収集において、目標件数は達 しているが、供給側からの需要動向を探るのは無理 がある。
	②トレードフェア 来場者アンケート	トレードフェアの来場者に対しアンケート調査を実施。9/8、9開催 (調査回数)	1	1回	トレードフェアでの来場者アンケートでは、結果の フィードバックを出店者に限定せず、これから出店 を考える人に情報提供し、出店者数を増やしたらどう か。  委員会評価はB。

項目	実施事業	事業内容	本年度 目標	実績 (4~1月)	委員会コメント・評価
IV 事業計画 の策定 ・ 実施 ・ 経営革新 ・ 事業承継 ・ 創業支援	①経営計画策定支援者の掘りおこしとセミナー開催	経営計画作成セミナーの開催。(開催回数) 開催案内を利用して計画作成とその実行が経営の発展に有効である旨啓蒙する。	1	2回	経営計画策定支援の掘り起こしとセミナーの開催では、回数は目標を達成している。計画策定に結び付くような指導を望む。 経営計画の作成支援では、目標数値は達成できたが、目標件数を高くしたい。 フォローアップについては、年4回程度は目標としたい。 経営革新の申請件数の7件は、指導員が減少する中評価する。 事業承継マッチングは、アンケート調査に留まらず、フォローアップに努めてほしい。 創業支援では、引き続き行政・金融機関と連携し支援を続けたい。  事業計画の策定・実施・経営革新・事業継承・創業支援について、委員会評価はA。 フォローアップに関しては委員会評価はB。
	②経営計画の作成支援	セミナー開催や専門家を活用して策定を支援。(作成件数)	20	39件	
		フォローアップ	40	34件	
	③経営革新計画申請支援	計画をブラッシュアップして経営革新申請の支援を行う。(申請件数)	3	7件	
	④事業承継マッチング支援	引継支援センターと連携し事業承継支援(支援件数)	3	5件	
⑤創業支援	伊豆市役所と連携して創業支援(支援件数)	3	5件		
V 販路開拓 支援	①トレードフェア出展	バイヤーを招待して展示、商談の場を設ける。 9/8(金)、9(土)開催。 効果的な商談のためのセミナーを開催する。 (出展件数)	13	9件	ビジネスマッチング出店件数は目標に達したが、トレードフェア出店件数、共同チラシ「いずっちの一押し」の掲載事業所数、アンテナショップ出展件数、ビジネスマッチング出店件数は目標に届いていない。  伊豆市にはまだまだ良い産品がある。積極的に出展を勧めて欲しい。  委員会評価はB。
	②逸品カタログ掲載	共同チラシ「いずっちの一押し」の発行(掲載件数)	60	54件	
	③情報サイト掲載	商工会ホームページの会員紹介サイトに掲載(掲載件数)	90	80件	
	④アンテナショップ出展	全国連、県連のアンテナショップへ出展(出展件数)	5	4件	
	⑤ビジネスマッチング出展	金融機関と連携しビジネスマッチングに出展企業を募集。(出展件数)	2	3件	

項目	実施事業	事業内容	本年度 目標	実績 (4~1月)	委員会コメント・評価
Ⅵ 地域経済 活性化の 取組	①山海フェア	毎年12月に土肥地区で開催。(出店者数)	36	33件	山海フェアは、協力企業数が若干目標に達しなかったが、他団体との連携で規模が拡大。販路拡大、地産地消に効果が認められるとして評価する。
	②いーずらバル (いーずらクーポン)	修善寺温泉を中心に飲食店へのリピーター開拓。H29は特典付きクーポン発行事業を実施。目標値(チケット販売数)、実績値(参加店舗数)	550枚	22店	いーずらバル事業は、見直す検討材料の一つとして花火大会との抱き合わせ開催などを提案された。
	③インターンシップ協力	地元企業を知っていただくため生徒の就業体験を受け入れ、雇用の創出につなげる。(協力企業数)	16	16社	インターンシップへの協力では、地元高校の他に中学校の動向の調査を提案された。
	④伊豆総合高校文化祭出品	地元企業の製品を展示して地域の産業を知っていただき雇用創出につなげる。(出展企業数)	13	13社	委員会評価はB。
Ⅶ 支援力向上 の取組	①全職員による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県連合会等の主催する研修を受講させ研修内容の報告、資料回覧で知識を共有する。</li> <li>・事業所支援にチームで対応しOJTを進める。</li> <li>・職員勉強会の開催。</li> </ul>			<p>全職員による指導体制の確立では、職員が減少する中、職員の減少に対応するよう知識や情報の共有を図りスキルアップに努める。経営指導推進会議の活用を図るなどし、様々な会員の要望に対応できるようにしてほしい。</p> <p>委員会評価はA。</p>

※評価基準

- A: 目標を達成することができた  
 B: 目標を概ね達成することができた  
 C: 目標を半分程度しか達成できなかった  
 D: 目標をほとんど達成できなかった

平成30年度 経営発達支援事業の見直し・取組

<p>①伊豆市中小企業・小規模企業振興基本条例制定に伴い、なお一層行政との連携を進める。          ②地域の経済動向調査や連携会議等結果の活用、提供を進める。          ③巡回は件数にこだわらず、小規模事業者と商工会の距離を縮める内容の訪問を行う。          ④トレードフェアのアンケート結果は出店者に限定せず、これから出店を考える方々へ情報提供し新たな出店者を開拓する。          ⑤伊豆市にはまだ埋もれている良い産品があるので積極的に商談会等へ出展を支援する。          ⑥職員数減少への対応するため経営指導推進会議の活用を図るなど、知識の共有、スキルアップに努める。          ⑦小規模事業者から求められているIT関連の支援ができるよう職員の勉強会を行う。          ⑧計画策定後のフォローアップを充実させるため複数の専門家による個別相談を行う。</p>
--